

都市再生整備計画 事後評価シート
糸魚川駅北地区

令和4年3月

新潟県糸魚川市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	新潟県	市町村名	糸魚川市	地区名	糸魚川駅北地区			面積	21.8ha
交付期間	平成29年度～令和3年度	事後評価実施時期	令和3年度	交付対象事業費	522.4百万円	国費率	0.422		

1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	案内看板(地域生活基盤施設)、観光交流センター拡充(高次都市施設 観光交流センター)						
		提案事業	-						
			事業名	削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
	当初計画から削除した事業	基幹事業	にぎわい拠点施設(高次都市施設 観光交流センター)	関係者との合意形成に不測の時間を要し、本計画期間内での事業完了が不可能となったため、削除			「にぎわい拠点施設」で予定していた活動を「にぎわい創出広場(建物)」で実施するため、影響なし		
		提案事業	-	-			-		
	新たに追加した事業	基幹事業	まちなか駐車場(地域生活基盤施設)	にぎわい創出広場の整備と併せ、来街者の利便性を向上させ駅北地区の集客を高めるため、追加			指標1「まちなか歩行者数」、指標2「観光交流センター来館者数」を上方修正		
			にぎわい創出広場(「駅北広場キターレ」)(高次都市施設 地域交流センター)	地区の中心となる本町通り沿いの公共空地を活用し、大火の記憶伝承と誰もが気軽に集い、活動する場として整備するため、追加			指標1「まちなか歩行者数」、指標2「観光交流センター来館者数」を上方修正		
提案事業		事業効果分析調査(事業活用調査)	社会資本総合整備計画(効果促進事業)から移行			影響なし			
		花いっぱい推進事業(まちづくり活動推進事業)	社会資本総合整備計画(効果促進事業)から移行			影響なし			
		にぎわい創出人材育成事業(まちづくり活動推進事業)	にぎわい創出等を担う人材不足から、その育成が急務のため追加			指標3「街づくり団体による地域活性化活動への参加者数」を上方修正			
交付期間の変更	当初	平成29年度～令和3年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			-			
	変更	-	-			-			

2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	単位	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
指標1	まちなか歩行者数	人/日	240	H29	481	R3	-	122	×	あり なし ●	駅北広場キターレの開設や案内看板の設置等により新たな人の動きが見られるようになったが、新型コロナウイルスの感染流行に伴う外出自粛の影響とともに、令和元年夏以降道路工事が始まったことで、本町通りの歩行者数に影響を与えたものと考えられる。	-
指標2	観光交流センター(広域観光交流拠点)来館者数	千人/年	280	H29	332	R3	-	285	△	あり なし ●	施設機能の拡充により、令和3年11月までの実績値は平成29年度を上回るまでに回復しているが、新型コロナウイルスの感染流行に伴う外出自粛の影響により目標を満たすに至っていない。	令和4年6月
指標3	街づくり団体による地域活性化活動への参加者数	人/年	270	H29	560	R3	-	622	○	あり なし -	大火をきっかけとした自治活動の活性化とともに、まちづくりシンポジウムの開催や駅北まちづくり戦略の策定を通じてまちづくり活動に対する機運が高まり、活動への参加者が増加している。	令和4年6月

3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	単位	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
その他の数値指標1	駅北広場キターレ来館者数	人/年	0	H28	/	/	-	14,810	/	/	駅北広場キターレを活動の場として市民等の新たな活動が生まれ、あわせてそのイベント等への参加者も増加している。	令和4年6月
その他の数値指標2	トワイライトエクスプレス入込人数	人/年	0	H28	/	/	-	14,900	/	/	トワイライトエクスプレス再現車両の展示により、市内外からの誘客が図られている。	令和4年6月
その他の数値指標3	創業件数	件/5年	3	H28	/	/	-	12	/	/	地区内の創業件数の増加は、駅北地区のまちの活性化の状況を表すと考えられる。	令和4年6月

4) 定性的な効果 発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀街道などのまちの歴史や大型防火水槽などの大火の記録を記した解説板を設置することで、来街者のほか、市内小学生がまち歩きの総合学習や防災学習としても活用されている。 ・駅北広場キターレが開設され、施設運営者によるマルシェや子どもイベントのほか、地元野菜の販売などの市民の皆さんによる新たな活動も生まれている。夕方には、勉強する学生の姿もあり、これまでに見られなかった世代の人たちが見られるようになったとの声もいただいている。 ・また併設するシェアキッチンも、令和2年度47件の利用があり、これまでに2名が自身の店を開業している。 ・トワイライトエクスプレスでは、車両内で市内飲食店の食事を提供するなど施設を活用した新たな取り組みもっており、新たな魅力を生み出している。 ・まちなか駐車場は、駅北広場キターレの利用者のほか商店街への買い物客や駅北エリアでのイベント参加者等、利便性の向上に寄与している。 				
5) 実施過程の評価		実施内容	実施状況		今後の対応方針等
	モニタリング	復興まちづくり計画評価委員会 被災者関係者アンケート	都市再生整備計画に記載し、実施できた		-
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●	
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
	住民参加 プロセス	住民との対話 愛称募集 駅北大火周年事業	都市再生整備計画に記載し、実施できた		今後も住民との対話の場を設け、住民と行政との協働を推進する。 周年事業は、大火の記憶と教訓を伝承するため、継続実施する。
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●	
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
	持続的なまちづくり 体制の構築	駅北復興まちづくり市民会議 駅北まちづくり会議 駅北デザインミーティング	都市再生整備計画に記載し、実施できた		駅北まちづくり戦略における公民連携の取り組みを推進する。
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●	
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			

様式2-2 地区の概要

都市再生整備計画事業の成果概要								
まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
【大目標】復興からの糸魚川駅北地区のにぎわいづくり 目標1: 回遊性を高めることによりまちなか全体を歩いて楽しめるにぎわいの創出を目指す 目標2: 市内外からの誘客を図るため、既存施設の拡充や、にぎわいを創出する広場など施設の整備を図る 目標3: 若者や子供世代が訪れたいくなるような施設整備と運営企画を目指し、ヒトづくりとマチづくりの「交流の場づくり」を図る	まちなか歩行者数	単位: 人/日	240	H29	481	R3	122	R3
	観光交流センター(広域観光交流拠点)来館者数	単位: 千人/年	280	H29	332	R3	285	R3
	街づくり団体による地域活性化活動への参加者数	単位: 人/年	270	H29	560	R3	622	R3

駅北広場キターレ

観光交流センター拡充

まちなか駐車場

凡例

- 都市再生整備計画区域
- 都市機能誘導区域
- 居住誘導区域

○小規模住宅地区改良事業 復興住宅 H29~H30

○街なみ環境整備事業 遊歩道(道路美装) H30~R2

○都市防災推進事業 防災広場(8箇所) H29~R1

○街なみ環境整備事業 道路美装化、電線地中化 H29~R2

○街なみ環境整備事業 修景施設 H29~R2

□まちづくり活動支援事業 花いっぱい推進事業 R2~R3

□まちづくり活動支援事業 事後評価委託 R3

□まちづくり活動支援事業 にぎわい創出人材育成事業 R2

■高次都市施設 観光交流センター(広域観光交流拠点) 観光交流センター拡充 A=76m2 H29~R2

■地域生活基盤施設 駐車場 A=720m² H30

■高次都市施設 地域交流センター にぎわい創出広場 A=1340m² にぎわい創出広場駐車場 A=610m² H30~R3

■地域生活基盤施設 情報板 案内看板 N=52基 H29~R3

■高次都市施設 観光交流センター ジオバル

案内看板

花いっぱい推進事業

にぎわい創出人材育成事業

<p>まちの課題の変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> 案内看板の設置により、散策しながらまちを楽しむ仕掛けが生まれ、小学生の学習や来街者のまち歩きを促進することができた一方で、まちなかの歩行者数はまだ増加には至っておらず、引き続きまちの活気や人の流れを促進していく必要がある。 駅北広場キターレの開設により、市民等の新たな活動が生まれるとともにイベント等に参加する来街者が増えている。また、各種イベントや高齢者を中心とした健康運動教室の開催、高校生が学習する様子などから、これまでに見られなかった世代の人たちがまちに見られるようになったとの声もいただいている。 大火をきっかけとした自治活動の活性化とともに、まちづくりシンポジウムの開催や駅北まちづくり戦略の策定を通じてまちづくり活動に対する機運が高まり、市民が主体となった取り組みが増加している中で、まちなかの人口減少と高齢化の進展に少しでも歯止めをかけていくためにも、各活動の広がりや推進と子育て世代や高齢者など多様な世代の更なる交流を図る必要がある。
<p>今後のまちづくりの方策(改善策を含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 新たに整備した案内看板や市民公園・遊歩道など施設を生かして、小学生の防災(まち歩き)学習や来街者のまち歩きを引き続き促進していくほか、まちづくり活動の持続・活性化及びジオバルステーションから駅北地区への誘導を推進する。 新しくできた駅北広場キターレなどの公共的な空間の利用促進をさらに推進する。 駅北まちづくり戦略の推進により、まちづくりを担う人材の発掘と育成、また、より活動しやすい環境を行政が整え、公民連携の取り組みを推進するほか、高齢者から若者・子育て世代まで多様な世代が交流する機会の増加を図る。

都市再生整備計画事業 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 都市再生整備計画事業評価委員会の審議

- 添付様式8 都市再生整備計画事業評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9—有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●	—	—	—
B. 目標を定量化する指標		●	—	—	—
C. 目標値	●		指標1 まちなか歩行者数:400人/日 指標2 観光交流センター(広域観光交流拠点)来館者数:330千人/年 指標3 街づくり団体による地域活性化活動への参加者数:480人/年	指標1 まちなか歩行者数:481人/日 指標2 観光交流センター(広域観光交流拠点)来館者数:332千人/年 指標3 街づくり団体による地域活性化活動への参加者数:560人/年	事業内容の変更に伴い、各指標の目標値を上方修正した
D. その他(計画面積)	●		22.0ha	21.8ha	当該計画決定後に策定した糸魚川市立地適正化計画の都市機能誘導区域と一致しない一部区域を計画区域から除外

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域生活基盤施設	案内看板	20	N=10基	33.5	N=52基	H31.3に駅北地区サイン計画を策定し、設置箇所数を10基から52基へ変更	案内看板増設による回遊性向上に伴い、指標1「まちなか歩行者数」を上方修正する	●	—
地域生活基盤施設	まちなか駐車場	—	—	52.4	A=720㎡	にぎわい創出広場の整備と併せ、来訪者の利便性を向上させ、駅北エリアの集客力を高めるために追加その後、周辺地域で民間駐車場が整備されたことに伴い、事業内容を2箇所から1箇所に削減	まちなか駐車場整備による集客力の向上に伴い、指標1「まちなか歩行者数」、指標2「観光交流センター(広域観光交流拠点)来館者数」を上方修正する	●	—
高次都市施設(観光交流センター)	にぎわい拠点施設	1,311	A=3,000㎡	—	—	関係者との合意形成に不測の時間を要し、本計画期間内での事業完了が不可能となったため、事業削除	「にぎわい拠点施設」で予定していた活動を「にぎわい創出広場(建物)」で実施するため、影響なし	—	—
高次都市施設(地域交流センター)	にぎわい創出広場	—	—	382.2	A=1,340㎡	地区の中心となる本町通り沿いの公共空地を活用し、大火の記憶伝承と誰もが気軽に集い、活動する場として追加	にぎわい創出広場整備による集客力の向上に伴い、指標1「まちなか歩行者数」、指標2「観光交流センター(広域観光交流拠点)来館者数」を上方修正する	●	—
高次都市施設(観光交流センター)	観光交流センター拡充	62	A=100㎡	84.2	A=76㎡	拡充箇所の追加(SLくろひめ号の移設設置)に伴う事業費増	トワイライトエクスプレス客車の設置に加え、SLくろひめ号の移設設置を行うことで、観光交流センタージオパルの魅力が高まると想定し、指標2「観光交流センター(広域観光交流拠点)来館者数」を上方修正する	●	—

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
事業活用調査	事業効果分析調査	—	—	2.0	都市再生整備計画の分析調査	都市構造再編集中支援事業への移行に伴い、社会資本総合整備計画(効果促進事業)から移行して追加	影響なし	●	—
まちづくり活動推進事業	花いっぱい推進事業	—	—	0.4	花と緑を育むことにより、景観美化及び住民間の交流促進を図る	都市構造再編集中支援事業への移行に伴い、社会資本総合整備計画(効果促進事業)から移行して追加	影響なし	●	—
	にぎわい創出人材育成事業	—	—	7.0	整備周辺地域において、新たな活動の担い手となる人材を育成するため、実践的研修等を行う	にぎわい創出等を担う人材不足から、その育成が急務のため追加	新たな人材の発掘と育成に伴い、指標3「街づくり団体による地域活性化活動への参加者数」を上方修正する	●	—

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考) 関連事業									
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考	
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画			
都市防災総合推進事業		糸魚川駅北地区	—	824.1	—	H28～R1	道路拡幅改良、不燃化促進、防災広場整備(完成)	—	
街なみ環境整備事業		糸魚川駅北地区	—	987.0	—	H29～R2	電線地中化、修景施設整備、道路美化化(未完成(継続実施))	—	
小規模住宅地区改良事業		糸魚川駅北地区	—	539.8	—	H29～H30	小規模改良住宅整備(完成)	—	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
			基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	事後評価	モニタリング	事後評価	あり	なし			
指標1	まちなか歩行者数	人/日 計測時期:令和3年6年 実施主体:糸魚川商工会議所 対象:本町通り(糸魚川信用組合本町支店前)における平日の14時間(8時から22時)歩行者数 具体手法等:本町通り(糸魚川信用組合本町支店前)における平日14時間通行量を計測し、評価値(確定値)とする	332	H26	240	H29	481	R3	モニタリング	—	モニタリング	—	—	—	●
									事後評価	確定 ●	122	事後評価			
指標2	観光交流センター(広域観光交流拠点)来館者数	千人/年 計測時期:令和3年12月 実施主体:商工観光課 対象:糸魚川ジオステーションジオパル来館者数 具体手法等:令和3年4～11月の実績値及び新型コロナウイルスの影響を受けていない平成28～30年の過去3年間の傾向から、年間来館者数を算出し、評価値(見込みの値)とする	324	H27	280	H29	332	R3	モニタリング	—	モニタリング	—	—	—	●
									事後評価	確定 ●	285	事後評価			
指標3	街づくり団体による地域活性化活動への参加者数	人/年 計測時期:令和3年8月 実施主体:都市政策課 対象:令和3年度に街づくり団体が行った地域活性化活動への参加者数を確認し、評価値(見込みの値)とする	—	—	270	H29	560	R3	モニタリング	—	モニタリング	—	—	—	—
									事後評価	確定 ●	622	事後評価			

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	駅北広場キターレの開設や案内看板の設置等により新たな人の動きが見られるようになったが、新型コロナウイルスの感染流行に伴う外出自粛の影響とともに、令和元年夏以降道路工事が始まったことで、本町通りの歩行者数に影響を与えたものと考えられるため。	—
指標2	施設機能の拡充により、令和3年11月までの実績値は平成29年度を上回るまでに回復しているが、新型コロナウイルスの感染流行に伴う外出自粛の影響により目標を満たすに至っていないため。	—
指標3	大火をきっかけとした自治活動の活性化とともに、まちづくりシンポジウムの開催や駅北まちづくり戦略の策定を通じてまちづくり活動に対する機運が高まり、活動への参加者が増加しているため。	—

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○:評価値が目標値を上回った場合

△:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×:評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
			基準年度		基準年度						
その他の数値指標1	駅北広場キターレ来館者数	計測時期:令和3年12月 実施主体:都市政策課 対象:駅北広場キターレ来館者数(利用許可・飲食利用・イベント等・相談打合・視察) 具体手法等:令和3年4~11月の実績値と、昨年度(令和2年度)の傾向から、利用者数を算出し、評価値(見込みの値)とする	-	-	0	H28	モニタリング	-		14,810	駅北広場キターレを活動の場として市民等の新たな活動が生まれ、あわせてそのイベント等への参加者も増加しており、指標1・3を補完するものとして取り上げる。
							事後評価	確定			
その他の数値指標2	トワイライトエクスプレス入込人数	計測時期:令和3年12月 実施主体:糸魚川市観光協会 対象:トワイライトエクスプレスの年間入込人数 具体手法等:令和3年4~11月の実績値と、昨年度(令和2年度)の傾向から、入込人数を算出し、評価値(見込みの値)とする	-	-	0	H28	モニタリング	-		14,900	トワイライトエクスプレス再現車両の展示により、市内外からの誘客が図られており、指標2を補完するものとして取り上げる。
							事後評価	確定			
その他の数値指標3	創業件数	計測時期:令和3年12月 実施主体:都市政策課 対象:地区内での創業件数 具体手法等:事業期間(平成29年度~計測時期)中に地区内で創業した件数を確認し、評価値(見込みの値)とする。	-	-	3	H28	モニタリング	-		12	地区内の創業件数の増加は、駅北地区のまちの活性化の状況を表すと考えられるため、指標1を補完するものとして取り上げる。
							事後評価	確定			

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・加賀街道などのまちの歴史や大型防火水槽などの大火の記録を記した解説板を設置することで、来街者のほか、市内小学生がまち歩きの総合学習や防災学習としても活用されている。

・駅北広場キターレが開設され、施設運営者によるマルシェや子どもイベントのほか、地元野菜の販売などの市民の皆さんによる新たな活動も生まれている。

夕方には、勉強する学生の姿もあり、これまでに見られなかった世代の人たちが見られるようになったとの声もいただいている。

また併設するシェアキッチンには、令和2年度47件の利用があり、これまでに2名が自身の店を開業している。

・トワイライトエクスプレスでは、車両内で市内飲食店の食事を提供するなど施設を活用した新たな取り組みも行っており、新たな魅力を生み出している。

・まちなか駐車場は、駅北広場キターレの利用者のほか商店街への買い物客や駅北エリアでのイベント参加者等、利便性の向上に寄与している。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等	
駅北復興まちづくり計画評価委員会	予定どおり実施した	【実施頻度・実施時期】 平成30年3月から令和2年3月までに3回 【実施結果】 駅北復興まちづくり計画の各施策について、評価と検証を行い、見いだされた課題の改善につなげていった。	-	
	予定はなかったが実施した			●
	予定したが実施できなかった (理由)			-
被災者関係者アンケート	予定どおり実施した	【実施頻度・実施時期】 平成30年2月から令和3年2月までに4回 【実施結果】 被災者・関係者の駅北復興まちづくり計画における取組の進み具合や効果などの全体的な評価や感想などを把握することができ、今後の施策に反映させていく資料となった。	-	
	予定はなかったが実施した			●
	予定したが実施できなかった (理由)			-

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
住民との対話	予定どおり実施した	<p>○被災者関係者説明会（復興関連工事の予定や事業の進捗状況についての説明など） 【実施頻度・実施時期】 平成28年12月から令和2年11月までに23回 【実施結果】 事業実施にあたり、住民の理解や協力、合意形成を図ることができた。</p> <p>○駅北復興まちづくりカフェ（市民や関係団体と復興まちづくりに対するアイデア検討） 【実施頻度・実施時期】 平成29年3月から平成30年1月までに6回 【実施結果】 ワークショップや被災地域の現状把握のためのまち歩きをして、まちのにぎわいづくりや回遊する活動のイメージ共有・アイデア出しができた。</p>	今後も住民との対話の場を設け、住民と行政との協働を推進する。
	予定はなかったが実施した	<p>● ○ブロック別意見交換会（被災地を10ブロックにわけ、きめ細やかな意見交換や相談） 【実施頻度・実施時期】 平成29年4月から平成30年12月までに適宜開催 【実施結果】 事業実施にあたり、住民の理解や協力、合意形成を図ることができた</p>	
	予定したが実施できなかった (理由)	<p>○にぎわい創出広場の整備に関する話合い ・にぎわいチャレンジミーティング 【実施頻度・実施時期】 平成29年10月から12月までに4回 【実施結果】 まちづくりを担う若者を中心とした活動アイデアの検討を行うことができた。</p> <p>・関係団体等との意見交換 【実施頻度・実施時期】 平成30年6月から8月までに24団体 【実施結果】 運営や屋内スペースの活用に対する期待や要望を把握できた。</p> <p>・利用会議（広場を利用して自ら活動したいと考えている方々との具体的な活動イメージを共有） 【実施頻度・実施時期】 平成30年7月から8月に2回 【実施結果】 活動イメージを設計に反映させることで整備後の活動がスムーズにつなげることができた。</p> <p>・管理運営に関する民間事業者等との意見交換 【実施頻度・実施時期】 平成30年12月 全体説明会（事業概要の説明、意見交換） 平成31年1月 個別相談会（管理運営条件等について個別に対話） 【実施結果】 民間事業者からのアイデアを踏まえ、運営手法（業務仕様）に反映することができた。</p> <p>・利用者説明会（供用開始前、市民への事前利用説明会） 【実施頻度・実施時期】 令和2年2月に1回 【実施結果】 利用方法等の説明や施設の内覧を行い、整備後、市民活動がスムーズに始められるよう情報共有できた。</p>	

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
駅北広場の愛称募集	予定どおり実施した	●	【募集期間】 令和元年10月から11月まで全国から募集 【実施結果】 市民から関心を持ってもらい、親しまれる施設となるように愛称を募集し、217件の応募があった。	-
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
駅北大火周年事業	予定どおり実施した	●	【実施頻度・実施時期】 平成29年12月から毎年12月実施 【実施結果】 関係団体等と連携するとともに、まち歩きやまちづくりシンポジウムの開催によりまちづくりの機運が高まりつつある。また、駅北広場キターレをはじめとする公共施設や空き店舗等を会場にすることで、まちなか回遊の促進につながった。	大火の記憶と教訓を伝承するため、継続実施する。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
駅北復興まちづくり市民会議	予定どおり実施した	●	【実施頻度・実施時期】 平成30年7月から平成31年2月までに7回 【実施結果】 ワークショップ形式により、にぎわいのあるまちのイメージの具体化と、にぎわいづくりに向けた取組が提案された。	駅北復興まちづくり市民会議 市民・関係団体・行政職員・アドバイザー20人 人々が集い憩う中心市街地としてのにぎわい及び活力を創出するため、多様な市民が一体となってまちのイメージを具体化していく
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
駅北まちづくり会議	予定どおり実施した	●	【実施頻度・実施時期】 令和元年7月から令和3年2月までに29回 【実施結果】 公民連携によるまちづくりの取組を推進する「駅北まちづくり戦略」を令和2年10月に策定。 駅北地区が目指す姿:まちなか大家族~つながり・育む・豊かな暮らし~ 3つのテーマ:子育て・地産地消・高齢者元気	駅北まちづくり会議 ○推進会議(関係団体・行政職員10人) 駅北まちづくり戦略の策定、実践活動への承認、サポート ○実践会議(まちづくり活動を担う市民・アドバイザー20人) 実践活動の提案と推進 ※テーマごとに部会を設置
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
駅北デザインミーティング	予定どおり実施した	●	駅北まちづくり戦略における公民連携の取組を推進するため、活動の実践に重きをおいた「駅北デザインミーティング」を設置。	○駅北デザインミーティング 市民・関係団体等10人 駅北まちづくり戦略の進捗管理や実践活動の推進に向けた検討 ○駅北ラボ まちづくり活動のキッカケの場として、情報共有・ネットワークづくりに向けた学びや交流の定期的な開催 誰でも参加自由
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

市民がまちづくりに参加しやすい環境整備に努め、今後も市民主体の活動が広がる公民連携による取組を推進する。

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
糸魚川市駅北復興まちづくり推進本部会議	都市政策課、企画定住課、商工観光課	令和3年11月	都市政策課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別		指標3		その他の数値指標1		その他の数値指標2		その他の数値指標3				
指標名		街づくり団体による地域活性化活動への参加者数		駅北広場キターレ来館者数		トワイライトエクスプレス入込人数		創業件数				
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見			
基幹事業	案内看板	○	大火をきっかけとした自治活動の活性化とともに、まちづくりシンポジウムの開催や駅北まちづくり戦略の策定を通じてまちづくり活動に対する機運が高まり、活動への参加者が増加している。	○	駅北広場キターレを活動の場として市民等の新たな活動が生まれ、あわせてそのイベント等への参加者も増加している。	—	トワイライトエクスプレス再現車両の展示により、市内外からの誘客が図られている。	○	地区内の創業件数の増加は、駅北地区のまちの活性化の状況を表すと考えられる。			
	まちなか駐車場	○		○		—		◎				
	にぎわい創出広場	◎		◎		—		—				
	観光交流センター拡充	—		—		◎		—				
提案事業	事業効果分析調査	—		—		—		—		—	—	—
	花いっぱい推進事業	○		○		—		—		—	—	—
	にぎわい創出人材育成事業	◎		◎		—		—		◎	◎	◎
関連事業												

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	指標3	その他の数値指標1	その他の数値指標2	その他の数値指標3
今後の活用	今後も市民主体のまちづくり活動が展開されるよう、全体支援に努める。	今後も市民活動の場としての利用が促進されるよう、広く周知、PRに努めていく。	今後も交流拠点としての利用が促進されるよう、広く周知、PRに努めていく。	今後も中心市街地としての活力が高められるよう、環境づくりを図る。

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2			-			-						
指標名		まちなか歩行者数			観光交流センター (広域観光交流拠点)来館者数			-			-						
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類				
基幹事業	案内看板	△	駅北広場キターレや案内看板の設置等により新たな人の動きが見られるようになったが、新型コロナウイルスの感染流行に伴う外出自粛の影響とともに、令和元年夏以降道路工事が始まったことで、本町通りの歩行者数に影響を与えたものと考えられる。	Ⅲ	△	施設機能の拡充により、令和3年11月までの実績値は平成29年度を上回るまでに回復しているが、新型コロナウイルスの感染流行に伴う外出自粛の影響により目標を満たすに至っていない。	Ⅲ										
	まちなか駐車場	△			-												
	にぎわい創出広場	△			△												
	観光交流センター拡充	△			△												
提案事業	事業効果分析調査	-															
	花いっぱい推進事業	△															
	にぎわい創出人材育成事業	△															
関連事業																	

※目標未達成への影響度
 ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 -：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

改善の方針 (記入は必須)	駅北まちづくり戦略の推進による活動の発展とジオパルステーションからの人の流れの誘導など指標数値の改善が図られるよう努める。	今後も関係団体等と連携し、周知、PRを通じて交流拠点の活用促進により指標数値の改善が図られるよう努める。		
------------------	---	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
糸魚川市駅北復興まちづくり推進本部会議	都市政策課、企画定住課、商工観光課	令和3年11月	都市政策課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
回遊性向上による にぎわいの創出	案内看板の設置により、散策しながらまちを楽しむ仕掛けが生まれ、小学生の防災学習や来街者のまち歩きを促進することができた。	まちなかの歩行者数はまだ増加には至っておらず、引き続き、まちの活気や人の流れを促進していく必要がある。	—
交流拠点としての機能強化 によるにぎわいの創出	駅北広場キターレの開設により、市民等の新たな活動が生まれるとともに、イベント等に参加する来街者が増えている。 また、各種イベントや高齢者を中心とした健康運動教室の開催、高校生が学習する様子などから、これまでに見られなかった世代の人たちがまちに見られるようになったとの声もいただいている。	—	—
人口の減少と高齢化の改善	大火をきっかけとした自治活動の活性化とともに、まちづくりシンポジウムの開催や駅北まちづくり戦略の策定を通じてまちづくり活動に対する機運が高まり、市民が主体となった取り組みが増加している。	まちなかの人口減少と高齢化の進展に少しでも歯止めをかけていくためにも、各活動の広がり推進と多様な世代の更なる交流を図る必要がある。	—

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	まち歩き促進	新たに整備した案内看板や市民公園・遊歩道など施設を生かして、小学生の防災(まち歩き)学習や来街者のまち歩きを促進していく。	・まち歩きマップ、まちなかガイドと連携した駅北エリアの魅力、情報発信 ・小学生の防災学習や総合学習の場としての活用の推進
	交流拠点施設の利用促進	駅北広場キターレの利用促進とジオステーションジオパルの魅力向上。	・駅北広場キターレについては、若者や地区住民等を中心とした現状利用者に加え、広く市民に利用される施設となるような情報発信強化と運営 ・ジオパルについては、展示内容の更新やイベントの実施による魅力強化
	市民主体によるまちづくり活動の持続	駅北まちづくり戦略における実践活動をはじめ、様々なまちづくり活動の推進を図り、まちづくりを担う人材の発掘と育成、またより活動しやすい環境を行政が整え、公民連携の取り組みを推進する。	・駅北まちづくり戦略の推進 ・駅北広場キターレを活動の場とする活動の支援

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	まちの活気や人の流れを促進	・駅北まちづくり戦略の推進によるまちづくり活動の発展。 ・ジオパルステーション(糸魚川駅)による誘客を駅北エリアへ誘導する。	・駅北デザインミーティングの実施 ・鉄道(ジオパル)イベントと駅北エリア内施設等イベントとの連携 ・海を臨む展望施設改修
	多世代が交流する環境の形成	高齢者から若者・子育て世代まで多様な世代が交流する機会の増加を図る。	子育て支援施設の整備
	・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策		

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

- ・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度						予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	まちなか歩行者数	人/日	240	H29	481	R3	確定 ●	122	×	あり	●	-	-	-
							見込み			なし				
指標2	観光交流センター(広域観光交流拠点)来館者数	千人/年	280	H29	332	R3	確定 ●	285	△	あり	●	令和4年6月	令和3年度における「観光交流センター(広域観光交流拠点)来館者数」を確認し確定値とする。	-
							見込み ●			なし ●				
指標3	街づくり団体による地域活性化活動への参加者数	人/年	270	H29	560	R3	確定 ●	622	○	あり -	-	令和4年6月	令和3年度における「街づくり団体による地域活性化活動への参加者数」を確認し確定値とする。	-
							見込み ●			なし -				
その他の数値指標1	駅北広場キターレ来館者数	人/年	0	H28	/		確定 ●	14,810				令和4年6月	令和3年度における「駅北広場キターレ来館者数」を確認し確定値とする。	-
その他の数値指標2	トワイライトエクスプレス入込人数	人/年	0	H28	/		確定 ●	14,900				令和4年6月	令和3年度における「トワイライトエクスプレス入込人数」を確認し確定値とする。	-
							見込み ●							
その他の数値指標3	創業件数	件/5年	3	H28	/		確定 ●	12				令和4年6月	令和3年度における地区内の「創業件数」を確認し確定値とする。	-
							見込み ●							

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	—	指標設定においては、不測の事態を見越して目標・事業に対応する代替指標を検討しておくが良い。
	うまくいかなかった点	新型コロナウイルスの感染拡大という不測の事象により、当初設定した指標の目標値に大きく影響した。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	—	—
	うまくいかなかった点	—	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	事業の実施過程において、全体説明会や個別の意見交換会の場を通じて、情報共有や意見把握ができた。 広報やウェブサイトを活用し、事業の進捗状況などを周知することができた。	住民参加はまちづくり事業を円滑にする上で有効である。
	うまくいかなかった点	—	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	事後評価を実施したことにより、一連の事業実施効果が明らかとなり、残された課題や効果の持続を図るべき事項が明確となった。	事業実施にあたって、目標及びこれを数値化する適切な指標を設定し、事業の実施過程及び実施後にこれをチェックしながら今後のまちづくりに活かすことは、まちづくりを計画的、継続的に進める上で有効である。
	うまくいかなかった点	—	
その他	うまくいった点	—	
	うまくいかなかった点	—	

添付様式6—参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後の都市再生整備計画事業の活用予定
糸魚川駅北地区にて第2期計画を策定し、令和4年度から事業実施を予定している。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市ホームページに原案を掲載	令和4年1月19日～2月18日	令和4年1月19日～2月18日	2次元コードから入力、 または郵送、FAX、電子 メールで送付するか受 付場所に提出	都市政策課
広報掲載・回覧・個別配布	おしらせばん1月10日号で事 前周知	—	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	都市政策課、能生・青海事務 所、各図書館、各地区公民館 の窓口で閲覧	令和4年1月19日～2月18日	令和4年1月19日～2月18日		
住民の意見	特になし				

(6) 都市再生整備計画事業評価委員会の審議

添付様式8 都市再生整備計画事業評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	中出 文平 (長岡技術科学大学教授)	令和4年3月18日	都市政策課	糸魚川市 都市計画審議会条例	糸魚川市 都市計画審議会
その他の委員	高瀬 吉洋 (商工会議所会頭) 堀口 裕子 (民生委員・児童委員) 藤田 英志 (元小学校長) 杉田 康一 (新潟県建築士会糸魚川支部長) 田原 実 (市議会議員 建設産業常任委員会委員長) 近藤 新二 (市議会議員 建設産業常任委員会副委員長) 堀 尚紀 (国土交通省北陸地方整備局 高田河川国道事務所長) 瀬戸 民枝 (新潟県 糸魚川地域振興局 地域整備部長) 伊藤 輝夫 (糸魚川地区区長会 一の宮区長) 遠藤 紀美子 (NPO 女性みちみらい上越 理事) 小嶋 ます子 (能生商工会 女性部) 磯貝 正子 (個店の魅力アップ女性の会) 斉藤 富貴子 (青海町商工会 女性部長)				

審議事項※1	委員会の意見
方法書	・特になし
成果の評価	・新型コロナウイルスの影響もあり、数値目標はなかなか達成できなかったが、本事業で整備された案内サインはわかりやすくデザインも工夫しているほか、駅北広場キターレは外観の色彩に配慮して周辺との一体感があり、まちなか駐車場も役に立っていると評価する意見があった。
実施過程の評価	・特になし
効果発現要因の整理	・特になし
事後評価原案の公表の妥当性	・特になし
その他	・特になし
事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。

今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・駅北広場キターレで様々な事業が進められてきたが、駅北地区だけで動いている印象であり、糸魚川市全体の市民にも周知して参加できる仕組みづくりが必要なのではとの意見があった。
	フォローアップ	・特になし
	その他	・今後のまちづくりにあたっては、若い世代の方がいろいろな場に出ていきやすい環境づくりが重要との意見があった。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他		・特になし